

日本における王昭君故事の受容

阿部 泰記

要約

王昭君の故事は『漢書』から始まり、『後漢書』では王昭君が掖庭で元帝に会えず怨みを抱いて自ら匈奴に嫁ぐことを選び、元帝はその美貌を見て後悔すると言う。『琴操』では彼女の悲憤を強調して心に怨みを抱き、わざと容姿を飾らなかったため、元帝が彼女の部屋を訪れず、王昭君は単于の国に行っても故郷を思つて「怨曠思惟歌」を作つたと言う。『西京雜記』では後宮に人が多かつたため画工が絵を描いて宮女が召されたが、王昭君は画工に賄賂を贈らなかつたため召されず、匈奴に行くときになって帝はその美貌を見て後悔し、画工を処刑して肖像画の上手な毛延寿も処刑されたと言う。『王明君辞』では王昭君は出塞の途中馬上で琵琶を弾いて憂鬱を慰め、従者も涙を流し、馬も悲しみ、胡国に安住できず、閼氏の地位も榮譽に思わなかつたと言う。¹こうした王昭君故事は8世紀に遣唐使によって日本に伝わつた。最初は漢詩と和歌によって出塞する王昭君の遺恨を表現し、後に物語によってその故事を叙述した。故事は次第に通俗化して新たなストーリーを創出した。また物語では故事を借りて人物の感情を表現したり、遊女にたとえられたりした。明治時代に至ると幼稚園唱歌ではその功績を賞賛し、王昭君は畏敬すべき女性として精神修養の参考とされている。本稿ではこうした日本における王昭君故事の受容について考察する。

キーワード：王昭君 昭君 王昭君 やまと昭君 傾城王昭君 遊君王昭君 本朝王昭君 見立王昭君

一 漢詩における受容

1. 『懷風藻』一卷（天平勝宝三年、751）²

日本最古の漢詩集、一百二十首。おおむね宴会で吟詠した詩歌で、六朝の風格を持つ。³その中で釈弁正の五言詩は二首あり、⁴第一首「与朝主人」は王昭君の出塞故事を借りて、唐朝が「和蕃公主」を派遣し戦争を避けた賢明さを賞賛する。⁵また第二首は王昭君の出塞の悲惨さを描写する。

¹ 中国の王昭君伝説の展開については、清胡鳳丹『青冢志』十二卷（1877序、『香艷叢書』第十八集）、劉世義『昭君出塞史料輯覽』（1984、湖北：興山県地方志弁公室）、張文徳『王昭君故事的伝承与嬗変』（2008、上海：学林出版社）、張高評『王昭君形象之転化与創新』（2011、台北：里仁書局）などの研究がある。

² 『校注日本文学大系』24、国民図書株式会社、1930年第三版。

³ 辰巳正明編『懷風藻 漢字文化圏の中の日本古代漢詩』、『上代文学会研究叢書』、東京：笠間書院、2000年11月初版）

⁴ 序に「弁正法師者、俗姓秦氏。性滑稽、善談論。少年出家、頗洪玄学。太学年中、遣学唐国。時遇李隆基（玄宗）龍潜之日、以善困菴、屢見賞遇。……」

⁵ 参考：藤野月子「唐代の和蕃公主をめぐる諸問題について」、九州大学東洋史論集34、2006年4月。

鐘鼓沸城闔、戎蕃預国親。神明今漢主、柔遠靜胡塵。

琴歌馬上怨、楊柳曲中春。唯有關山月、偏迎北塞人。

「朝主人」は不詳。弁正は太宝元年(701)に遣唐使として唐に渡った時にこの詩を作った。「今漢主」は中宗(則天武后)を指す。「琴歌馬上怨」は王昭君が出塞の時馬上で琴曲を歌ったことを指す。⁶

2. 『凌雲集』一卷(弘仁五年、814)⁷

日本最古の敕撰漢詩集、九十一首。唐詩の影響を受ける。従七位上守少内記滋野宿禰貞主「王昭君」一首は寒い北国へ行く途中で長安を顧みる王昭君の悲哀の感情を描く。

朔雪翩翩沙漠暗、辺霜慘烈隴頭寒。行行常望長安日、曙色東方不忍看。

3. 『文華秀麗集』三卷(弘仁九年、818)⁸

敕撰漢詩集。梁蕭統『文選』を参考に分類。一百四十八首。卷中「楽府」に嵯峨天皇「王昭君」一首と良岑安世・菅原清公・朝野鹿取・藤原是雄の「奉和王昭君」各一首を収録する。嵯峨天皇の「王昭君」は王昭君が厳しい環境の胡国へ嫁ぎ永遠に帰国できない運命を描く。

弱歲辭漢闕、含愁入胡闕。天涯千万里、一去更無還。

沙漠壞蟬鬢、風霜殘玉顏。唯余長安月、照送幾重山。

朝野鹿取「奉和王昭君」は石崇「王明君辭」の詩句を襲用して王昭君が匈奴に嫁ぎたくない気持ちを描く。

遠嫁匈奴城、羅衣淚不干。画眉逢雪壞、裁鬢為風殘。

塞樹春無葉、胡雲秋早寒。閼氏非所願、異類誰能安。

4. 『経国集』二十卷存六卷(天長四年、827)⁹

敕撰漢詩文集。慶雲四年(707)以後の詩文を収録。卷十四小野未嗣「七言奉試賦得王昭君一首六韻為限」は出塞する王昭君の悲哀の感情を描く。

一朝辭寵長沙陌、万里愁聞行路難。漢地悠悠隨去盡、燕山迢迢猶未殫。

青虫鬢影風吹破、黃月顏粧雪点殘。出塞笛声腸闕絶、銷紅羅袖淚無乾。

高巖猿叫重壇苦、遙嶺鴻飛隴水寒。料識腰圍損昔日、何勞每向鏡中看。

5. 『千載佳句』二卷(応和三年、963以前)¹⁰

詩文集。大江維時(888-963)編。唐人・新羅人・高麗人などの七言二句を選ぶ。上巻547首、下巻536首。卷上「人事部」に唐陳潤「送王昭君」を載せる。

一双淚滴黃河水、願得東流入漢宮。¹¹

6. 『江吏部集』三卷(寛弘8年、1011前後)¹²

詩文集。大江匡衡(952-1012)撰。卷中「人倫部」に「王昭君」一首あり、王昭君が賄賂を贈らず琵琶を弾いて故郷を離れる不運を描く。

可惜明妃在遠營、本来尤物感人情。九重恩薄羅裙去、万里路遙画鼓迎。

漢月不知懷土淚、辺雲空媿惜金名。家園親党無相見、只聽琵琶怨別声。

⁶ 『文選』卷二十七、晋石季倫「王明君辭」序。

⁷ 『校註日本文学大系』24、東京：国民図書株式会社、1930年第三版。

⁸ 『校註日本文学大系』24、国民図書株式会社、1930年第三版。

⁹ 『校註日本文学大系』24、国民図書株式会社、1930年第三版。

¹⁰ 金原理等編『新撰万葉集 千載佳句』、熊本：在九州国文資料影印叢書刊行会、1979年7月初版。館藏史料編集会『国立歴史民俗博物館藏貴重典籍叢書』、京都：臨川書店、2001年7月初版。

¹¹ 宋郭茂倩輯『楽府詩集』卷二十九「相和歌辭」前唐王偃「王昭君」に「北望單于日半斜、明君馬上泣胡沙。一双淚滴黃河水、應得東流入漢家。」

¹² 『群書類従』第9集、東京：続群書類従完成会、1960年訂正3版。

7. 『和漢朗詠集』二卷(寛弘九年、1012)¹³

詩歌集。藤原公任(966-1041)編。卷上(春・夏・秋・冬)、卷下(風・雲・晴・曉・松・竹……禁中・古京……將軍・刺史・詠史・王昭君……)。卷下「王昭君」には白居易「題峽中石上」絶句¹⁴を上下二句に分けて載せ、上句は王昭君の故郷を描く。

巫女廟花紅似粉、昭君村柳翠於眉。

また白居易「王昭君」¹⁵は王昭君が出塞の後、容貌が衰えて画工が描いた絵のようだと述べる。

愁苦辛勤憔悴尽、如今却是画图中。

紀長谷雄(845-912)「王昭君」は王昭君が再び帰国できないと知って家が荒れることを心配する感情を述べる。

身化早為胡朽骨、家留空作漢荒門。

大江朝綱(886-957)の連句(発句・腰句・腰句・末句)は王昭君がもし画工に賄賂を贈ってれば宮廷を離れずにすんだと述べる。

翠黛紅顔錦繡粧、泣尋沙塞出家郷。(発句)

辺風吹断秋心緒、隴水流添夜淚行。(腰句)

胡角一声霜後夢、漢宮万里月前腸。(腰句)

昭君若贈黄金賂、定是終身奉帝王。(末句)

8. 『逍遙吟哦集』春夏秋冬四部(1908)¹⁶

説明はないが、『和漢朗詠集』の復刻版。作者名を明記せず。表紙『詩歌朗吟集』。

二 和歌における受容

1. 『後拾遺和歌集』二十卷(寛治元年、1087)¹⁷

敕撰和歌集。藤原道俊(1047-1099)編。卷十七雜三の赤染衛門(大江匡衡妻)「王昭君をよめる」一首は王昭君が故郷を思って泣く様を描く。

見るからに鏡のかげのつらきかな かからざりせばかからましやは

なげきこし道の露にもまさりけり なれにしさとをこふる涙は

また右大臣実定「王昭君のこゝろをよみ侍ける」一首は王昭君が出塞する時、琵琶の音が以前と変わらぬことを述べる。

あらすのみなりゆく旅の別ちに てなれし琴の音こそかはらね

2. 『千載和歌集』二十卷(文治四年、1188)¹⁸

敕撰和歌集。藤原俊成(1114-1204)編。約1290首。卷七「離別」に『後拾遺和歌集』右大臣実定「王昭君のこゝろをよみ侍りける」を転載する。

3. 『高等女子文範』二の巻(1899)¹⁹

和歌集。沖安海(1782-1857)²⁰「王昭君」(『鮎玉集』²¹)を載せる。

¹³ 菅野礼行校注訳『和漢朗詠集』、『新編日本古典文学全集』19、東京：小学館、1999年10月初版。

¹⁴ 『白氏長慶集』卷十七「題峽中石上」。

¹⁵ 『白氏長慶集』卷十四「王昭君」二首。第一首「滿面胡沙滿鬢風、眉銷殘黛臉銷紅。愁苦辛勤憔悴尽、如今却是画图中。」

¹⁶ 風流山人編。東京：和田文宝堂。

¹⁷ 久保田淳・平田喜信校注『後拾遺和歌集』、『新日本古典文学大系』8、東京：岩波書店、1994年4月。

¹⁸ 片野達郎・松野陽一校注『千載和歌集』、『新日本古典文学大系』10、東京：岩波書店、1993年4月。

¹⁹ 鈴木忠孝編。東京：興文社。

われとわが、たのみし花の。おもかげに、今更うきを。ます鏡かな。

4. 『明治才媛歌集』(1903)²²

和歌集。下田歌子(1854-1936)²³編。「王昭君」二首の前書には、「王昭君のいたましき情を詩に賦し、歌に詠ぜり」と言う。

都いでてうきを数ふる中にしも わけて鏡の影ぞつれなき 橘とせ子
北風に花の姿もうつりきと 君にな告げそ天つかりがね 下田歌子

三 歌論における受容

1. 『俊頼髓脳』二卷(1112-1114)²⁴

歌論集。源俊頼(1055-1129)著。懷円と赤染衛門の和歌を紹介した後に故事を述べる。

見る度に鏡のかげのつらきかな かからざりせばかからましやは(懷円)
なげきこし道の露にもまさりけり なれにしさとをこふる涙は(赤染)

「漢帝が美しい娘を選んで後宮に留めたが、四五百人にも及んだので全員を見ることができなかった。そのとき夷人が外国から上京したので、漢帝が人々に相談させると、後宮内の美しくない女人を選んで夷人に贈るのが最も好いということになった。人が多いので画師を招いて肖像を描かせたところ、王昭君は美貌を自負して画師に物品を贈らなかったので画師に醜く描かれ、漢帝は彼女を夷人に贈ることに決めた。召見してみると美貌であったため後悔したが、人を替えることはできず、王昭君は馬に乗って悲しく旅立ち、漢帝は未練が断ちきれず彼女の部屋を見に行くと、春柳が風にたなびき、春鶯がむなしく鳴き、秋になると庭の樹葉が堆積し、檐下の鳳尾草が叢生して、悲しさがつづいた。この二首は王昭君の故郷を思う心情を推測して詠んだものである。」

四 物語における受容

1. 『宇津保物語』二十卷(10世紀後半)²⁵

琴曲の伝授を主題とする。²⁶遣唐使清原俊蔭が漂流して波斯国に至り、天人や仙人から琴曲の秘訣を伝授され、二十三年後に日本に帰って娘に伝授する。娘は太政大臣藤原兼雅と結婚して北山の空洞で子仲忠を生み、秘訣を仲忠に伝授する。仲忠は女一宮と結婚して女犬宮を生み、母に秘訣を犬宮に伝授するよう求める。犬宮は後に上皇の前で琴曲を上演し、同座の衆人を感動させる。

「初秋(内侍督)」巻では、朱雀帝は俊蔭女が胡笳曲を上演するのを聴いて深く感動し、王昭君

²⁰ 伊勢白子の型売商人で奥羽地方に行商し、詩歌を詠じて旅を楽しんだ。「嘉永 1848-1853) 三十六歌仙」の一人。「沖安海翁墓碑」(安政五年 [1858]) 参考。

²¹ 加納諸平編『類題和歌鮫玉集』(文政十一年 [1828])、和歌山：加勢田屋平右衛門) 下巻「雑部」王昭君。早稲田大学蔵。

²² 東京：広文堂書店。国立国会図書館蔵。

²³ 実践女子学園の創設者。

²⁴ 橋本不美男校注訳『俊頼髓脳』、『新編日本古典文学全集』87、東京：小学館、2002年2月。

²⁵ 『校註日本文学大系』4、国民図書株式会社、1930年第三版。中野幸一校注・訳『うつほ物語』、『新編日本古典文学全集』15、東京：小学館、2001年5月初版。

²⁶ 上原作和・正道寺康子編著『日本琴学史』(2016、東京：勉誠出版) 第二部「平安朝物語文学と七絃琴一琴曲・説話・絵画一」(正道寺康子) 参照。

の故事を語る。「天皇が画師に七人の皇后の姿を描かせると、六人の皇后は画師に賄賂を贈ったが、王昭君だけは賄賂を贈らなかつたため、画師に美しく描かれ、胡国の武士に選ばれた。天皇は食言できず、胡国の人に贈った。この国母は胡国に行くとき嘆き、胡笛の音を聴くと馬も嘆いた。」

北の方、……一並は胡笛の声、譜のごと遊ばして、……同じくかい弾きたまふさまの手づかひなむ、かなしくめでたかりける。胡の婦女たちを、「昔唐土の帝の軍に負け給ひぬべかりける時、胡の国の人ありて、その軍を鎮めたりける時、天皇よろこびの極まりなきによりて、七の后の中に願ひ申さむをと仰せられて、七人の后を画にかかせ給ひて、胡の国の人にえらばせ給ひける中に、すぐれたる容貌ありける。……」とのたまふほどに、…

「国譲下」巻では、朱雀帝が東宮に譲位する時、中宮(後の宮)は長兄忠雅(太政大臣)、次兄兼雅(右大臣)に、兼雅女梨壺の子(三の宮)を東宮に立て、源正頼女藤壺の子を東宮に立てるべきではないと言い、そのため新帝と藤壺の関係が疎遠になるが、王昭君を胡国に遣り楊貴妃を殺した前例もあることから、新帝は受け入れざるを得なかつた。

王昭君を胡の国へやり、楊貴妃を殺させ給へる帝なくやはありける。

2. 『源氏物語』五十四帖(11世紀前半)²⁷

紫式部著。光源氏を主人公とする長編小説。「須磨」巻では光源氏が朱雀帝の寵愛する朧月夜と密会し、右大臣に見つかって処罰され、京都を離れて須磨で孤独な生活を送る。彼は冬に琵琶を弾いて、漢帝から北夷の国に遣られた宮女が琵琶を弾いて悲しみを慰める様子を思い浮かべ、もし自分が愛する人を遠くに遣ったならばどんなに悲しいだろうと考えて大江朝綱「霜後夢」詩(前出)を吟詠する。²⁸

冬になりて雪降り荒れたるころ、空のけしきもことにすごくながめ給て、琴を弾きすさび給ひて、……心とどめてあはれなる手など弾きたまへるに、……涙を拭ひあへり。むかし胡国に遣はしけむ女をおぼしやりて、ましていかなりけん、この世にわが思きこゆる人などをさやうに放ちやりたらむことなど思ふも、あらむことのやうにゆゆしうて、「霜の後の夢」と誦じ給ふ。

3. 『今昔物語集』三十一巻(12世紀前半)²⁹

天竺五巻、震旦五巻、本朝二十一巻。巻十「漢武帝后王昭君行胡国語」第五のストーリーは『俊頼髓脳』(前出)に似ている。「胡国の人へ帰国の途中で琵琶を弾いて王昭君を慰め、胡国に着くと皇后に冊立して大事にしたが、彼女は楽しまなかつた。時人は彼女の傲慢が招いたことだと非難した」と言う。

4. 『唐物語』一卷(12世紀後半)³⁰

藤原成範(1135-1187)編の和歌物語。王子猷が戴安道を訪れ、白楽天が商人婦の琵琶を聴く話など二十七篇の中国故事を載せる。³¹『蒙求』『白氏文集』等の中国作品に基づき、『源氏物語』等の先行作品の影響を受ける。第二十五篇「王昭君絵姿を醜く写され胡の王に嫁ぐ語」では、「漢

²⁷ 柳井滋等校注『源氏物語』、『新日本古典文学大系』20、東京：岩波書店、2001年6月第五版。

²⁸ 佐伯雅子「『源氏物語』における平安漢詩文—大江朝綱「王昭君」を例にして」参照。和漢比較文学学会・中日比較文学学会共編『新世紀の日中文学関係—その回顧と展望』(2003、東京：勉誠出版)収。

²⁹ 小宮和明校注『今昔物語』、『新日本古典文学大系』34、東京：岩波書店、1999年3月初版。

³⁰ 小林保治編著『唐物語全釈』、東京：笠間書店、1998年初版。第二十五篇、岩山泰三注釈。

³¹ 1 王子猷、2 白楽天、3 賈氏、4 梁鴻・孟光、5 司馬相如・卓文君、6 石季倫・緑珠、7 宋玉、8 眇々、9 張文成・則天皇后、10 徐德言・陳氏、11 簫史・弄玉、12 望夫石、13 娥皇・女英、14 陵園妾、15 武帝・李夫人、16 武帝・西王母、17 呂后・四皓、18 玄宗・楊貴妃、19 朱買臣、20 杵臼・程嬰、21 平原君、22 楚莊王、23 隱瑜妻、24 上陽人、25 王昭君、26 潘安仁、27 雪雪。

元帝に三千人の皇后があり、その中で王昭君が最も美しく、人に嫉妬されていた。そのとき胡王が来て一人の皇后を求め、元帝は画師に似顔絵を描かせて選んだ。誰が唆したのか、画師は王昭君を醜く描き、胡王は喜んで彼女を連れて帰国した。胡王は人情を理解しなかったが、彼女の美貌を愛し、破格に待遇した。しかし王昭君は故郷を思っ涙が止まらなかった。この人は鏡の中の自分の影は曇らないと信じていたが人の心が濁っていることを知らなかったのである」と言い、途中に和歌を挿入して、王昭君が美貌を恃んで人に嫉妬されたことを後悔する心情を表現している。

うき世ぞと かつはしるしるはかなくも かがみのかげをたのみけるかな

5. 『宝物集』七卷(治承年間 1177-81)³²

仏教故事集。平康頼(1146?-1220)著。巻三では先に王昭君故事を説明し、その後に王昭君に関する詩歌を掲載する。『和漢朗詠集』の大江朝綱の漢詩、『後拾遺和歌集』の懷円法師と赤染衛門の和歌の他に、僧都懷寿、顛昭法師、惟宗広言の和歌がある。

王昭君が王宮をいでて胡国にゆきし、さまはかはれりといへども、この心 に侍るべし。胡国の后とはもてなせども旅の床露けく、月のひかりかきなれど、涙にくらされてくもれり。ただ馬上にして、昭君弾曲をひきて、琵琶に心なぐさむ計也。この心の詩歌おほく侍るめり。少少申侍るべきなり。

思ひきやふるき都を立ちはなれ この世の人とならんものとは(僧都)

津の国のなにはの積みのむくひにて 我身一つをあしく書けん(顛昭)

心から玉藻のくづとかかれにき なにかゑじまのうらみしもせん(惟宗)

6. 『平家物語』原三卷(1221 以前)³³

延慶本六卷(1420)、八坂本十二卷、長門本二十卷(1741)。王昭君故事は延慶本巻一末「漢王の使に蘇武を胡国へ被遣事」、長門本巻四「蘇武事」中に述べられ、漢武帝が王昭君を取り返すために蘇武を胡国に出征させ、蘇武は十九年を経てついに王昭君を取り返す。

延慶本巻一末「漢王の使に蘇武を胡国へ被遣事」では、漢武帝が胡国の夷狄の要求に応じて、三千の皇后の中から最も醜く描かれた皇后を選んで夷狄に贈る。王昭君は鏡中の自分の美貌を恃んで黄金を贈らなかつたため醜く描かれ、九重の宮殿を離れて遠く万里の地に赴かざるを得ず、永遠に帰国できないと悟って朝夕悲しみ、次の歌を詠んだ。

見る度に鏡のかげのつらきかな かからざりせばかからましやは³⁴

武帝は王昭君のことが気がかりで、李陵を大將軍とし、十万の騎兵を率いて胡国に出征させるが、李陵は敗れて俘虜となり、胡国にとどまって単于に仕える。武帝は怒ってその母を殺し亡父の遺体を鞭打つ。天漢元年(前 100)、武帝は再度蘇武を派遣するが又敗れ、蘇武は片足を切り落として一人生存し、信を大雁の足に繋いで朝廷に報告する。武帝は又賢者永律を大將軍として出征させ、胡国を破って王昭君を奪回する。蘇武は十九年を経て故郷に帰る。

7. 『唐鏡』六卷(13 世紀後半)³⁵

『大鏡』『水鏡』など先行の史書の形式で編纂した中国の歴史故事。成書年不詳。王昭君故事は

³² 小島弘等校注『宝物集』、『新日本古典文学大系』40、東京：岩波書店、1993年11月初版。

³³ 吉沢義則校註『応永書写延慶本平家物語』、1925年、東京：改造社出版。有延慶三年(1311)、応永二十七年(1420)抄写記録。麻原本子等編『長門本平家物語』、東京：勉誠出版、2004年6月出版。麻原本子等編『長門本平家物語の総合研究』、東京：勉誠出版、2000年2月出版。

³⁴ 懷円法師作。『後拾遺集』雑三。『新撰朗詠集』「王昭君」。

³⁵ 平沢五郎『唐鏡校異編』、東京：古典文庫、1967年初版。吉田幸一等校『唐鏡彰考館本』、東京：古典文庫、1965年初版。

『琴操』『西京雜記』『王明君辭』等の野史の記載を採用する。後宮の人が多く、漢帝は画師に描かせて美人を召した。王昭君は齊国王嬙の娘で、年十七で後宮に入ったが、美貌を自負して画師に賄賂を贈らず醜く描かれた。そのとき夷国が来て一人の女王を求めたため王昭君を選んだ。漢帝は見て後悔したが人を替えることができず、画師を処罰するしかできなかった。恐ろしい夷人は彼女を馬に乗せて去り、王昭君は途中で琵琶を弾いて悲しみを慰めた。夷城に着くと、夷人は彼女を後に封じて心から仕えた。彼女は苦痛であったが、歳月を経て二女を生んだ。

8. 『源平盛衰記』四十八卷(14世紀)³⁶

『平家物語』の異本。読本。奴卷第十「丹波少将上洛事」では、丹波少将が大赦を受けて上洛する途中、備前国の児島で亡父の筆跡を捜し出して墳墓の前で亡父と話す。上洛の後、又山莊に行くと、山莊は荒れ果て、山寺の鐘の音を聞くと、王昭君の出塞の後の家もこのように寂れていたであろうと思ひやる。

築地崩れて覆朽ち、門傾きて扉倒る、庭には千種生ひ茂り、人跡絶えて道塞がり……、いつしか田舎には引替て、入相の野寺の鐘の音、今日も暮ぬと打響く。彼遺愛寺の辺の草庵に似たりけり。王昭君が胡国の夷に囚れて後、其跡角や有けん、思ひやられて哀也。

礼卷第十七「祇王祇女仏前事」では、虞姫・楊貴妃・王昭君の例を借りて遊女を説明する。

世に白拍子といふ者あり。漢家には虞氏・楊貴妃・王昭君など云しは、これ皆白拍子なり。吾が朝には鳥羽院の御宇に、島千歳・若前とて、二人の遊女舞ひ始めけり。

絵巻第四十三「二位禅尼入海並平家亡虜人人附京都注進事」では、二人の禅尼が平家の先帝を背負って入水した後、平家の女官が武士に捕らえられて京都に送られる様が、夷人に胡国へ送られた王昭君よりも悲惨であったと言う。

奉始建礼門院、北政所、帥典侍、大納言典侍以下、或は討れ或は捕れたる人々北方、上臈下臈船底に臥まろび、声を調てをめき叫給へり。人目をも見ぬ人々の、不見馴武士の手に懸て、都へ帰上給しは、王昭君が夷の手に被渡て、胡国へ行し悲さも、争か是には勝るべき。

9. 『曾我物語』十二卷(14世紀初期)³⁷

中国故事を収録。真名字本³⁸は古本、假名字本³⁹は後出のテキスト。假名字本卷二では、漢帝と王昭君の感情を子細に描き、王昭君は漢帝に絵を褥の上に描けば夢で会うことができると言う。

昔漢の王昭君と申せし后を胡国の夷に取られ、胡国へ越え給ひしに、名残の袖はき難くして歎き悲しみけるに、王昭君が歎き余りに、「自らがしきし褥に、我が姿を移し止めてしき給へ。我夢に來たりてあふべし」と契りける。漢王悲しみて、彼の褥を枕にして泣き伏し給ひしかば、夢とも無く又現とも無く來たりて折折あひにけり。彼の昭君が胡国への道すがら涙にくるる四方の山共里とも分け兼ねて、袖のひる間も無かりけり。思ひの余りに旧栖を顧みて、「蒼波路遠くしてはかう山深し」と詠じつつ、漢宮万里の旅の空、今の思ひに知られたり。

真名字本卷二では、伊藤祐親の三女が流人兵衛佐(源頼朝)と愛し合って千鶴御前を生む。祐親は知って激怒し、千鶴を殺して三女を奪い返して別の男に嫁がせる。作者は王昭君が胡国に嫁いだ時の心情を借りて三女の悲哀を描く。

³⁶ 『校註日本文学大系』15、国民図書株式会社、1928年第三版。

³⁷ 市古貞次、大島建彦校注『曾我物語』、『日本古典文学大系』88、東京：岩波書店、1961年1月。

³⁸ 『曾我物語』、真名字本。東京：角川書店初版、『貴重古典籍叢刊』3、『妙本寺本曾我物語』。訓読本、青木晃等編『真名本曾我物語』、東京：平凡社、東洋文庫468、1987年初版。

³⁹ 市古貞次等校注『曾我物語』、古活字本。『日本古典文学大系』88、東京：岩波書店、1966年初版。

遠く唐国を訪へば、漢王の御時、王昭君と申しける、胡国の狄、閑夜将が手に渡されて胡国へ趣き給ひし旅の悲しさもかくやらむと覚えて哀れなり。されば詩にも、

胡角一声霜後夢、漢宮万里月前腸。

身化早為胡朽骨、家留空作漢荒門。

歎きこし道の露にもまさりけれ 古郷恋ふる袖の涙に

見るからに鏡の影のつらきかな かからざりせば歎かざらまし

これらは紀長谷雄・大江朝綱・赤染衛門・懷円法師ら日本の作者の歌である。

10. 『太平記』四十卷(1370年代)⁴⁰

戦記物語。小島法師等。南北朝時代(1336-1392)の社会の動乱を述べる。卷第十一「金剛山寄手等被誅事付佐介貞俊事」では鎌倉地方の乱世の状態を述べ、王昭君が不如意に匈奴に嫁いだ故事を引用して、当事の婦女が田舎者に奪われる様を描く。

偕老の枕の上に契を成しし貞女も、むくつけゝなる田舎人どもに被奪て、王昭君が恨を貽し、富貴の臺の中に傅立(かしづきたて)し賢息も、傍へだにも寄ざりし凡下共の奴と成て、黄頭郎が夢をなせり。

卷第二十一「塩冶判官讒死事」では武藏守師直が塩冶判官高貞の妻を奪うために高貞が謀反したと讒言して追いかけて殺す。師直は好色で、侍従から高貞の妻が絶世の美女であると聞いて何度も情書を送るが拒絶されたため、将軍に高貞が謀反したと讒言する。高貞は逃走し、師直が追いかけると、高貞の親族が夫人を殺し、高貞も割腹自殺し、師直は死亡する。侍従は王昭君の故事を引用して師直に高貞の妻が田舎者の高貞に嫁いだことは悲惨であると説く。

いかなる女院、御息所とも奉見か、さらずば今程天下の権を取るさる人の妻ともなし奉らで、声は塔の鳩の鳴く様にて、御副臥もさこそこはごはしく鄙閑たるらんと覚る出雲の塩冶判官に先帝より下されて、賤き田舎の御棲にのみ、御身を捨はてさせ給ぬれば、只王昭君が胡国の夷に嫁しけるもかくこそと覚て、奉見も悲くこそ侍りつれ。

又白居易「題峽中石上」⁴¹を引用して夫人を盗み見て惑わされる師直の心情を描写する。

其人は何くにか有るらんと、心たどたどしく成ぬれば、「巫女廟の花は夢の中に残り、昭君村の柳は雨の外に疎なる」心ちして、師直物の怪の付たる様に、わなわなと振り居たり。

卷第二十七「上杉畠山流罪死刑事」では、上杉・畠山両家が越前国に流され、途中で旅情を慰めるため琵琶を弾くのは王昭君が胡国に去るときのようだと述べる。

馴れぬ旅寝の床の露、をきふし袖をや濡すらん。日来より翫びし事なれば、旅の思を慰めんと一面の琵琶を馬鞍にかけ、旅館の月に弾じ給へば、王昭君が「胡角一声霜後夢、漢宮万里月前腸」と、胡国の旅を悲みしも角やと思ひ知られたり。

五 謡曲における受容

1. 『昭君』(15世紀前半)⁴²

謡曲。金春権守作。金春禅竹『歌舞髓記』(1456)第四雑体「王昭君」に、「此の風姿、殊に祖父曲風の一流を残す。」

⁴⁰ 後藤丹治等校注『太平記』。『日本古典文学大系』34-36、東京：岩波書店、1960年1月-1962年10月初版。

⁴¹ 『白氏長慶集』卷十七「題峽中石上」、「巫女廟花紅似粉、昭君村柳翠於眉。誠知老去風情少、見此爭無一句詩。」

⁴² 小山弘志等校注訳。東京：小学館『新編日本古典文学全集』59『謡曲集』②、1998年2月初版。

王昭君の老父（シテ）老母（ツレ）は娘が帰るのを待ち、柳樹の下で掃除している。里人（ワキ）がなぜ柳樹下から離れないかと尋ねると、老父は娘が胡国へ去る時この樹を植え、もし胡国で死ねばこの樹も枯れると言った、いま柳樹の枝葉の半分が枯れたのでここを離れたくないと言う。老父母は鏡が桃葉を照らすと仙女が現れるという故事にならって鏡で柳枝を照らし、王昭君を出現させようとする、果たして王昭君の亡霊（ツレ）が鏡に現れるが、同時に韓邪将の亡霊（シテ）も鏡に現れたので、老母（ツレ）はその恐ろしい顔を見て気絶し、韓邪将の亡霊も自分の顔を見て恥ずかしくなってその場を去る。王昭君の曇らない心は誠を照らす鏡であったのだ。

謡曲は日本の王昭君故事に取材している。昭君の家に柳樹があるのは『和漢朗詠集』の白居易の「昭君村柳翠於眉」という詩句に基づいている。韓邪将はもと呼韓邪であり、『曾我物語』で閑夜将と改称している。その容貌については『唐鏡』が恐ろしい夷人だと言っている。鏡が王昭君の美貌を照らすとは『後拾遺和歌集』で懐円が言っている。

六 説経節における受容

1. 『王昭君』(寛文9年、1669)。日暮小太夫正本。⁴³六段。ストーリーは『平家物語』と似ており、漢帝が王昭君を奪還する。「後漢光武帝は画匠毛延寿に絵を描かせて賢人嚴子陵を捜して執権に立てる。そのとき胡国の王が漢朝の美人を奪って皇后に冊立しようと考え、兵を派遣して国境に到る。漢軍は迎え撃つが胡兵は多く、光武帝は嚴子陵の策略に従って美女を胡国の王に贈って政治の混乱を招くことにし、毛延寿に絵を描かせて宮女を選ぶ。宮女たちは画匠に賄賂を贈って災難を逃れたが、王昭君は賄賂を贈らなかったため選ばれる。嚴子陵は王昭君に奪還を約束し、王昭君はその言葉を信じて出塞する。光武帝は先帝の遺品である琵琶を王昭君に贈って行旅を守る。王昭君が琵琶を弾くと孫仙人・西王母が天上から降臨し、楽器を合奏して彼女を慰める。樊噲・張良も降臨して夷狄を脅す。嚴子陵はまず商人に王昭君の木偶と一緒に胡国を向かわせ、時機を窺って本物とすり替える。嚴子陵は除妖剣を使って黄石公・張良・樊噲を降臨させ、胡王を捕らえる。

七 小唄における受容

1. 『美楊君歌集』(1604、幸若大夫) 十九首。⁴⁴

山城国伏見の里（遊里）の遊女小柳を王昭君に比して賛美する小唄。序に、

それ世の中に、ことわきおほしといへとも、人のこころをなくさむるは、まことにこうたよりよろしきはなし。爰に山城の国ふしみの里に遊君あまた侍りける中に、その名を小柳とそいひける。柳は又そのかみ、もろこしにきこえける昭君にたとへんためなり。

第一首に、

もろこしのせうくんは、かたみに柳をうへをきし、君は名につく、小柳と。

⁴³ 横山重編『説経正本集』第二（1968年、東京：角川書店）取。

⁴⁴ 神田俊一・吉田幸一編『近世前期歌謡集』（1998、東京：古典文庫）収慶長九年（1604）写本。参考：小野恭靖『『美楊君歌集』小考』（1999、大阪教育大学紀要第I部門第48巻第1号）。

八 演劇における受容

1. 『傾城王昭君』(1698、市川団十郎)⁴⁵

王昭君が画工に賄賂を贈らず漢帝に会えなかったイメージを借りて、遊女花月(山上源内妻宿木)が美貌ながら花会に招待されなかった様子を述べる。

其のかみ唐土の王昭君、既に胡国へ捕はれしも、我が麗しき形を頼み、画工に事をつくろはねば、画姿故に胡の国へ、赴きたりし物語、それは唐土、是れは和朝、思へば傾城王昭君。

2. 『王昭君』二場(脚本筋書)(1913、長谷川時雨)⁴⁶

歌舞伎座中村歌右衛門のために創作。大内義行の侍女昭子は大内家が勘合印を得るために、義行の姉弓女の前の言いつけに従って、自分を犠牲にして義行が贈った琵琶を抱いて唐船に乗って北夷に嫁す。

3. 『本朝王昭君』(1921、小野清子〔倉田啓明〕)⁴⁷

寛永時代、烏丸光広卿が遊君八千代太夫の肖像を明朝の文士李湘山に贈ると、湘山は八千代太夫を要求し、光広卿は食言叶わず、八千代太夫を李湘山に贈る。八千代太夫は王昭君の故事を引用して日本に帰らないことを決心する。

胡の地へ送られた王昭君の故事ではござんせぬが、再び日本の土を履むまいと覚悟を極めたこの八千代が心中、あなたも察して下さい。

なお『燕石十種』第六卷「吉野伝」(京都林与次兵衛家抱え遊女二代目吉野)には吉野太夫を李湘山に贈ったと言う。⁴⁸『本朝王昭君』はこの記事に基づいたものか。

明国呉興の李湘山なるもの、夢中、遊女吉野に逢い、寛永四年、慕って詩を贈り、翌年、肖像を請う。我朝の遊客、焉を議て、画工に命じ之を図せしむ、徳子の目前に跪て、佳貌を写す、画工其の輝相を尊んで、毛延寿の例を採らず、時に図画する処七影、顔色を違はず、恰も影鏡に移すが如し、悉く軸を附け七幅と為て、九州に遣はず、異朝の商人之を綾羅に代て、歡喜すること夥し、況や倭人に於てをや、衆人金峰山の花を見ては、松氏の姿を忍び、袖振山の月を詠ては、徳子の面影を思ふ

ちなみに長谷川時雨『明治美人傳』(1921)には、「徳川期では、吉原や島原の廓が社交場であり、遊女が、上流の風俗をまねて更に派手やかであり、そして、女としての教養もあって、その代表者たちにより、時代の女として見られた。それに次いで、明治期は、芸者美が代表していたといえる」と述べる。⁴⁹

4. 『王昭君』(1935)⁵⁰

花田鉄太郎。元帝は肖像が王昭君ではないと主張して留めようとするが、王昭君は自分だと主張してコカンヤに嫁ぎ、元帝は怒って王昭君に同調した葉妃を斬殺する。

5. 『新撰学校劇集』第一高学年用(1943、宮崎靖編)⁵¹

「はじめに」において、「大東亜戦下に於ける児童の精神、及び生活の向上を図り、ひいては

⁴⁵ 国民図書株式会社編『近代日本文学大系』2「古浄瑠璃及舞の本集」(1928、東京：国民図書株式会社)収。

⁴⁶ 『青鞥』第三年第一号(1913、青鞥社)掲載。国立国会図書館蔵。

⁴⁷ 『万朝報』大正十年(1921)五月八日、旧劇一等当選作品。国立国会図書館蔵。

⁴⁸ 朝倉治彦等監修『燕石十種』(1980年3月、東京：中央公論社)「吉野伝」参照。

⁴⁹ 初出『解放』「明治文化の研究特別号」(1921年10月、東京：解放社)。杉本苑子編『新編近代美人伝』上(1985、東京：岩波書店)収。

⁵⁰ 花田鉄太郎『灌頂が瀧』(1935、東京：日本書房)収。国立国会図書館等蔵。

⁵¹ 1943年、東京：清水書房刊。

次代を背負ふ国民に必要な要素を作品の主題としてゐる」と述べる。谷川仲江『王昭君』は王昭君の犠牲精神を賛美している。

絵師毛延寿への賄賂の期限が迫っており、盲目の淑蘭は姉黄如亭が貧乏で 賄賂が準備できず、姉と離れて生きられないと悲しみ、姉妹は自殺を考える。王昭君は九龍の珠を与えて窮地を救い、自身は醜く描かれて呼漢邪に嫁ぐ。昭君の弟葉邦鈴は延寿を斬ろうとするが昭君は遮る。淑蘭は昭君が胡国へ下ると聞いて自害し、帝は邦鈴に延寿を捕らえさせ、如亭に昭君の伴をさせる。

九 絵画における受容

江戸時代以前から王昭君図が数多く描かれた。以下のような作品が見られる。

- 『昭君弾琵琶図』 伝小栗宗湛 (1413-1481)。横川景三 (1429-1493) 賛。⁵²
『王昭君』 岩佐又兵衛 (1578-1650)⁵³
『昭君出塞図』 狩野安信 (1614-1685)・狩野寿石 (1639-1718)⁵⁴
『王昭君図』 土佐光起 (1617-1691)⁵⁵
『王昭君図』 久隅守景 (生没年不詳)⁵⁶
『王昭君図』 清原雪信 (約 1643-1682) (久隅守景女)⁵⁷
『王昭君写貌図』 英一蝶 (1652-1724)⁵⁸
『王昭君』 橘宗重作・長谷川等雲画『絵本宝鑑』(1688)⁵⁹巻四。
『王昭君』 大森善清画『絵本唐紅』(1703 頃)三巻⁶⁰上巻。
『王昭君』 林守篤画『画筌』(1712 序、1722 刊)⁶¹巻四。
『王昭君』 馬場信意『画林良材』(1715)⁶²巻四「美人貞婦之部」。
『王昭君』 円山応挙(1733-1795)⁶³
『王昭君図』 司馬江漢 (1747-1818)⁶⁴
『王昭君』 吉村周山画『和漢名筆画英』六巻(1750)⁶⁵巻三。

⁵² 京都妙心寺大心院蔵。山本英男「中国故事人物図 横川景三賛」(1990年3月、京都国立博物館『学叢』12号)参照。東京文化財研究所蔵ガラス乾板データベース 18832番、1938年3月撮影。

⁵³ 高島勝多編『慶長風俗展覧会図録』(1926、東京：松屋呉服店)、井上辰九郎蔵。『浮世絵展覧会図録』(1930、東京：大塚巧芸社)、井上辰九郎蔵。『浮世絵大家集成』第壹巻(1932、東京：大鳳閣書房)。『原色浮世絵大百科事典』第四巻、東京：大修館書店、1981年初版収、サンフランシスコ東洋美術館蔵。

⁵⁴ 熊本城「昭君の間」障壁画。『御天守秘書』。脇坂淳「熊本城丸御殿の障壁画」(2005年、京都教育大学紀要106)参照。

⁵⁵ ボストン美術館蔵。名古屋ボストン美術館特別企画展「ボストン美術館 日本美術の至宝」第四章「華ひらく近世絵画」51「王昭君図」(ウィリアム・スタージス・ビッグローコレクション)参照。

⁵⁶ 東京国立博物館 展示 日本美術(本館) 書画の展開—安土桃山～江戸 列品番号 A-1347。

⁵⁷ 高松良幸『文化財と出会う』「近世日本絵画ギャラリー」狩野派の作品(2011年9月より)参照。

⁵⁸ 岸文和『絵画行為論』(2008、京都：醍醐書房)第一章「絵事の逸話」第十一節「毛延寿の王昭君像」、42頁掲載。

⁵⁹ 『ARC 古典籍ポータルデータベース』。

⁶⁰ 金沢美術工芸大学蔵画像 no. 58。

⁶¹ 金沢美術工芸大学蔵画像 no. 69。

⁶² 岡山柳英校梓、名古屋・東京：黎明書房、1961年初版。

⁶³ 田中増蔵編『円山四条派画集』(1912、東京：聚精堂)上、二十三。

⁶⁴ 府中市美術館蔵。『江戸人物画 姿美、力、奇』(2011、東京：府中市美術館)、第136頁掲載。「悲劇のヒロインという画題としての魅力を持ち、江戸時代に好んで描かれた。」

⁶⁵ 寛延三年(1750)刊。金沢美術工芸大学蔵画像 no. 53。

- 『王昭君』 吉村周山画『和漢名筆画宝』六卷(1767)⁶⁶巻一「月山写」。巻四「王昭君」。
- 『王昭君詩図』 橘守国画『本朝画苑』六卷(1782)⁶⁷巻二「王昭君詩図 李太白」「王昭君入胡図」。
- 『王昭君と毛延寿』 鳥文齋栄之(1756-1829)⁶⁸
- 『昭君出塞図』 渡辺南岳(1767-1813)⁶⁹
- 『王昭君之図』 谷文一(1786-1818) 文化元年(1804)『美術画報』七編⁷⁰ 巻六。
- 『王昭君嫁胡図』 佐久間鉄園(1850-1921) 『美術画報』九編⁷¹巻四。
- 『王昭君』 一壺齋牽信 文化年間(1804-1817) (Guy Pepermans 蔵)⁷²
- 『王昭君図』 山本琴谷(1811-1873) 河本家(稽古有文館)蔵。
- 『王昭君図』 中村竹溪(1816-1867)⁷³
- 『遊君王昭君身請のすかかき』 18世紀初期 奥村政信(1686-1764)⁷⁴
- 『見立王昭君図』 18世紀後期 桃源齋栄舟⁷⁵
- 『王昭君』 菱田春草(1874-1911)、1902。⁷⁶
- 『王昭君』 吉川靈華(1875-1929)、1930。⁷⁷
- 『王昭君』 安田鞞彦(1884-1978)、1947。⁷⁸

十 川柳における受容

1. 『誹諧柳多留』(1765-1840)⁷⁹

初篇(明和二年、1765)から百六十七篇(天保十一年、1840)まで長期にわたって編輯された。王昭君に関する川柳では賄賂を要求する絵師毛延寿を詠んだものが多い。

絵の具代などともうえんじゅへつかい 十篇(安永四年、1776)

世事の無いやつだとなぐる毛延寿 四十五篇(文化五年、1808)

十一 小説における受容

⁶⁶ 明和四年(1767)刊。早稲田大学蔵。金沢美術工芸大学蔵画像 no. 88。

⁶⁷ 金沢美術工芸大学蔵画像 no. 80。

⁶⁸ 太田記念美術館蔵。『浮世絵に描かれた中国展』「肉筆画」6(1982、太田記念美術館)

⁶⁹ 南原作二郎編『聚美画鑑』(1889)収。Fraser, Mary (Crawford): *Letters from Japan: a record of modern life in the island empire.* (1904, New York: The Macmillan Company) chapter 24 p.71 Illustration: "The Departure of O Sho Kung"

⁷⁰ 明治三十三年(1900)、東京:画報社。

⁷¹ 明治三十四年(1901)、東京:画報社。

⁷² 加藤好夫編『浮世絵文献資料館』(2005年9月開設)「浮世絵師総覧」参照。

⁷³ 星野玲「中村竹溪筆 王昭君図」、『国華』963(1973、東京:国華社)。

⁷⁴ 神奈川県立歴史博物館『画像で見る歴史と文化』浮世絵の歴史「初期浮世絵」参照。

⁷⁵ 東京国立博物館蔵。

⁷⁶ 春草遺墨展覧会編『春草画集』(1912、画報社)、三輪信太郎蔵。飯田市美術博物館『飯田市市制施行70周年記念特別展 絵画の中の物語—菱田春草「王昭君」と日本美術院の歴史画』(2007)、善宝寺蔵。

⁷⁷ 前田剛二編『靈華画集』(1930、柏林社)巻上収。

⁷⁸ 野間清六『日本の絵画』(1953、創元社)、口絵第24図。解説に、「王昭君の高貴な養殖を描いた」と言う。足立美術館蔵。コレクション、安田鞞彦「王昭君」解説参照。

⁷⁹ 岡田甫校訂『誹諧柳多留全集』十二巻(1999、東京:三省堂)。若林力『江戸川柳で愉しむ中国の故事』(2005、東京:大修館書店)第四章「秦・漢時代 王昭君」参照。

1. 『やまと昭君』(1889、尾崎紅葉)⁸⁰

短編。我慢して単于に嫁いだ王昭君像を借りて、武士の娘一葉が父母の欲望を満足させるために、自分を犠牲にして高齢の家老に嫁ぐ悲劇を述べる。挿絵は平福徳庵(1844-1890)。⁸¹渡辺南岳『王昭君出塞図』を加工して王昭君を日本女性に変えている。

2. 『露のよすが』(1896、三宅花圃〔1869-1943〕⁸²)⁸³

短編。主人公露子は子爵広橋と見合いをするが成功せず、絵画を出品することで安らかに過ごす。母親にせかされて見合いの支度をする露子を王昭君に喩える。

そろへたる白襟に領元うるはしくて、いつもの露子のおもかげもなく、おもはゆげにてさしうつむくは、王昭君の恨みのそれならねども、いづくの胡の国にや引かれんと、さすがに安き心地はなきなるべし。

3. 『昭君怨』(1896、巖谷小波〔1870-1933〕⁸⁴)⁸⁵

短編。子爵藤代栄房が保険会社事業に失敗し、美代子は父の危機を救うため、杉波直臣との婚約を解消して「新平民頭領」である大坂の高利貸赤鍋某に嫁ぐ。吾(東京の画工巽碧瀾)が語りを通じて華族の困窮を描く。

4. 『恋の白蓮夫人』(1921、八瀬不泥)⁸⁶

短編。自序に、若い愛人の許へ去った伊藤伝右衛門妻燐子の事件を東京朝日新聞・大阪毎日新聞から採録したと言う。第三章「佳人王昭君」に、「若うして美しい白蓮の身は王昭君の囚はれ人にも比すべきものであったか」と述べる。

5. 『柳原燐子(白蓮)』(1936、長谷川時雨〔1879-1941〕)⁸⁷

短編。同じく伊藤伝右衛門妻燐子に取材した小説。第一章に、「伝衛門氏が五十二歳であるということや、無学な鋳夫あがりの成金だなぞということから、胡砂ふく異境に嫁いだ王昭君のそのように伝えられ」と述べる。

6. 『王昭君』(1923、池田桃川〔1889-1935〕)⁸⁸

長編。運命に順応する王昭君像を創造。画工が昭君の顔に痣をつけるのは元曲『漢宮秋』のプロット。元帝は宮女を求め、内監張譲が斉国出身の王穰のむすめ昭君を連れて上京する。昭君は毛延寿に賄賂を贈らず、延寿は顔に痣をつけて召見を阻む。昭君は自ら匈奴に嫁ぐことを願い、帝は昭君から事情を聴いて賄賂を要求した延寿を斬首する。元帝は昭君を失って苦しむが、昭君は胡俗に慣れて一子二女を生み、世子との結婚を拒んで縊死する。

7. 『王昭君』(1928、米田祐太郎〔1891-不詳〕)⁸⁹

⁸⁰ 硯友社『文庫』第十九～二十三号掲載。石橋忍月・内田魯庵に書評がある。

⁸¹ 武藤四郎「平福徳庵と尾崎紅葉 徳庵年譜補遺一「硯友社」との関わりをめぐる」参照。(秋田)北門文学会編『北門文学』1998年1月収。

⁸² 三宅龍子。元元老院議員田辺太一の娘。三宅雪嶺の妻。小説『藪鶯』等を著す。

⁸³ 『太陽小説』第一編(1896、東京：博文館)収。国立国会図書館蔵。相原和邦「共同研究報告 「太陽」と「女」一創刊期の様相」(1996、国際日本文化研究センター紀要13)参照。

⁸⁴ 巖谷季雄。号漣山人。貴族院議員巖谷修の三男。博文館『少年世界』の編集に従事。

⁸⁵ 『太陽小説』第一編(1896、東京：博文館)収。国立国会図書館蔵。後に『小説ハシモック』(1909、東京：亀井商店書籍部)に「今昭君」として発表。

⁸⁶ 1921年、東京：時事出版社。

⁸⁷ 『近代美人伝』(1936、サイレン社)収。

⁸⁸ 『支那香艶叢書』第六冊(1923、支那香艶叢書刊行会)。

⁸⁹ 『西太后・楊貴妃他三篇』(1928、東京：支那文献刊行会)収。

短編。王昭君は宦官の要求を拒否したため肖像画の両頬に黒痣を三個つけられ、不吉として元帝に会えず将来を悲観するが、後宮の束縛を脱して自由になるため野蛮な匈奴に嫁ぐことを選び、元帝から永安公主に封じられるが、実は元帝や国家のことなど微塵も考えていなかった。

8. 『モルガンお雪』（1937、長谷川時雨）⁹⁰

短編。米国の富豪ジョージ・モルガンに嫁いだ祇園の芸妓お雪（1881-1963）に取材した小説。第二章に、「胡北へ送らるる王昭君のようだとまで形容してあるが、これは幾分誇張かもしれない」と述べる。

9. 『王昭君』（1956、西川満〔1908-1999〕）⁹¹

短編。王昭君には黄玉郎という恋人がいたが宮女として選ばれ、玉郎と離別する。毛延寿は昭君に関係を迫るが拒絶されて醜貌に描き、元帝は昭君を和蕃公主として呼韓邪単于に嫁がせ、昭君は哀絶の中に匈奴に向かう。玉郎は成帝の副使として昭君に会うが、昭君は子供を守るため胡人であることを選んだ。

10. 『落陽』（1961、有吉佐和子〔1931-1984〕）⁹²

短編。楊という画工が精魂こめて王昭君の肖像画を描いて納得するが、帝は一輪の花の背景もなく青い衣をまとう王昭君の肖像を見て匈奴に贈ることを決め、後宮第一の美貌の王昭君を直に見ると、楊を咎めて処刑する。

11. 『明妃曲』（1965、井上靖〔1907-1991〕）⁹³

短編。作者の学生時代に田津岡竜英が『漢宮秋』とは違った王昭君資料を紹介して、実は王昭君は漢土というものへ何の愛著も懐しさも感じずに匈奴に嫁いだのであり、後になって自分が黒河に投じて死んだことになっているのを知ったのだと述べ、この資料を「明妃曲」と名づけると作者に告げる。

12. 『王昭君』（1991、陳舜臣〔1924-2015〕）⁹⁴

短編。宮女に志願する王昭君像を創造。毛延寿は王昭君と同郷であり、延寿が描いた五女図の中の宮女として元帝に推挙されて匈奴に嫁ぐ。

13. 『王昭君』（1996、藤水名子〔1964-〕）⁹⁵

長編。広い世界を求めて匈奴に嫁ぎ遊牧生活を享受する健康な王昭君像を創造。作者は「あとがき」に自身がモンゴル高原を訪れて、王昭君には「生を全うするための覚悟や潔さがあったはずだ」と感じた述べている。

十二 唱歌における受容

1. 保育唱歌⁹⁶第八十『王昭君』。村田春海(1746-1811)詠、奥好義(1857-1933)撰譜。1879年5月10日上申。東京女子師範学校依頼、宮内省式部寮雅楽部撰譜(1877-1883)、芝祐泰五線

⁹⁰ 初出1937年、東京朝日新聞。『新編近代美人伝』下(1985、東京：岩波書店)収。

⁹¹ 『中国美女譚』(1956、東京：大日本雄弁会講談社)収。

⁹² 『ほむら』(2014、東京：文芸春秋社)収。

⁹³ 『井上靖歴史小説集』第二巻(1981年初版、東京：岩波書店)収。

⁹⁴ 『中国美人伝』(1991、東京：中央公論新社)収。

⁹⁵ 1996年、東京：講談社。

⁹⁶ 斎藤基彦『明治の唱歌』「宮内省雅楽部の作った『保育唱歌』」(2013年11月最終更新)参照。『原典による近代唱歌集成 誕生・変遷・伝播』六「伶人たちの唱歌～保育唱歌」(2000年4月、ビクターエンタテインメント)は楽譜に基づき再現した。

譜編纂（1959年12月8日）。盤渉調律旋 一段拍子二十四、二段拍子十六、三段拍子十、四段拍子八、五段拍子七。琴。

その第一段は、以下の歌詞である。

雪交り 霰乱れて 終夜（よもすがら） 北吹（ふく）風の 豫（あ ら）
ましき 夜床の上に 熟（つくづく）と 枕（まくら）軟（そば）だて 来し方を 思ひ出
づれば 人の世は 夢なりけりな 賤手纏（しずたまき） 賤（いや）しき吾は 都姫（み
やひめ）と 仕（かず）まへられて 小簾（をす）の裏（うち）に 斎（いつ）かれし夜は
綾錦 袖に重ねて 白玉を 華蔓（かづら）にしつつ

2. 『幼稚園唱歌』⁹⁷ 市川八十吉編 明治十九年(1886) 内務省交付、東京：鴻盟社。

歌詞は『保育唱歌』に同じ。

十三 琵琶歌における受容

1. 『社説薩摩琵琶歌』(1886年、東京：薩摩堂蔵版)⁹⁸

鹿児島県平民川崎宗太郎編輯。自序で「時あって気概を壮ならしめ感憤の情を発せしむるものは独り琵琶あるのみ」と絶賛する。⁹⁹

王昭君は讒言を被って胡国へ流された。それは唐朝で遠く離れてはいるが憂いは同じ、私も王昭君のように憂えている。

一度君に別れては、ふたたび相逢ふ事もなし。隔て尽せし千山万水の雲、終夜心に掛けて思へども、……王昭君の其古は、漢の帝の美人にて、御寵愛は類ひなし。……如何なる人の讒言にや、胡国といへる遠国の、夷の在所に流され給ふぞ哀れなる。……彼は唐、此は我朝、乾坤万里と隔つれど、物思ふ身は異ならず。

2. 『曲譜薩摩琵琶歌大全』(1909年)¹⁰⁰

大阪薩摩琵琶研究会編、大阪：盛文館刊。序に「薩摩琵琶は士気を鼓舞する者なり」と言う。前編「王昭君」。歌詞は同前。

3. 『ボケ新曲琵琶歌』(1910年)¹⁰¹

歌詞に「切り」などの六符をつける。緒言に「薩摩琵琶は今より凡そ四百年前永正・大永(1505-1527)の頃薩摩の国主相模入道日新公が当時漸く萎靡せんとする士風を振興せんとて自ら歌曲を案出」したと由来を説く。歌詞は同前。

十四 新体詩における受容

1. 『今調唱歌集』(1890、東京：雪廼社)¹⁰² 相澤英二郎(1862-1948)編

佐々木信綱(1872-1963)「王昭君」四首。第一首は美貌を信じて賄賂を贈らなかつたばかり

⁹⁷ 大日本教育会書籍館旧蔵。国立国会図書館蔵。

⁹⁸ 国立国会図書館蔵。島津正著『江戸以前薩摩琵琶歌』(2000、東京：ペリかん社)第三章「古薩摩琵琶歌集」[三]端歌(五)述懐の歌「王昭君」参照。

⁹⁹ 『平家物語』巻七に、「この青山と申す御琵琶は昔仁明天皇の御宇に嘉祥三年の春掃部頭貞敏、渡唐のとき大唐の琵琶の博士廉承武に会うてかの三曲を伝へて帰朝せし」とある。

¹⁰⁰ 国立国会図書館蔵。

¹⁰¹ 琵琶歌倶楽部編、東京：日吉堂本店刊。

¹⁰² 国立国会図書館蔵。

に醜く描かれ胡国に送られて後悔する昭君を描く。

思ひあがりし わがかげも やさしきまでに おとろへて うつす鏡は
くもらねど 心ははるる ときぞなき

2. 『^{新体}詩集 花柘榴』(1901、東京：博文館)¹⁰³

国府犀東(1873-1950)作。「漢宮」「宮媛」「四宝宮」「絵像」「明星」「純金」「胡人配」「驚愕」「噬臍」「烈女」「漠北」「琵琶」「雪花」「最終」「胡沙」「青塚」十六篇。最後に李白「昭君怨」詩を置く。美貌を醜く描かれて胡人に嫁いだ王昭君の悲劇を詠む。その「烈女」は：

絵に偽りの、ありしとて、帝の赫怒は、啻ならず、絵人五人は棄市せらる、されど美人は、意を枉げず。かよわき腕、馬の背に、万里都の、暇乞ひ、黄河は天より、奔流し、胡地に峙立つ、五台嶺。

十五 伝記における受容

1. 『^{金言}対照 東西名婦の面影』(1911、東京：博文館)¹⁰⁴

高須梅溪著。「はしがき」に、「雄々しい中にも自ら女性の優し味を失はぬといったやうな閨秀を選んでおり、本書が諸姉の書架に加えられることを著者は希望している」と述べ、「絶世の佳人、君命に従うて匈奴の酋長に嫁す」(漢の王昭君)では、冒頭に金言として中江藤樹(1608-1648)の「難に逢ふて愈よ帰思多し」を冠して、画工に賄賂を贈らなかつたという極めて些細な事で一生の不幸を招く初めとなり、平和のため武骨な薄汚い老人の匈奴に嫁いだが、帰国がかなわず匈奴の地に逝いた王昭君の伝記と対照させている。

2. 『法窓清話』(1952、東京：立花書房)¹⁰⁵

岡琢郎著。「はしがき」に、「秋官の心得べきこととせられていたことどもを輯め録して、先人の迹を偲ぼうとする」と言い、王昭君は画工の歓心をかかわなかつた「清廉の佳人」として賞賛している。

十六 講談における受容

1. 『金田屋お蘭』(昭和三年〔1929〕)¹⁰⁶

昇龍齋貞丈(1889-1931)¹⁰⁷演。赤穂浪士が吉良上野介に仇討ちをする。「問者と問者」では、和七(倉橋伝介)に恋する善兵衛(茅野和助)の妹お雛が忠義のために上野介の妾になることを王昭君にたとえる。

古い譬への昭君胡地に嫁するの歎き、忠義の爲とは言ひながら、お雛は吉良の側室となりまして

十七 漫画における受容

¹⁰³ 国立国会図書館蔵。

¹⁰⁴ 国立国会図書館蔵。

¹⁰⁵ 国立国会図書館蔵。

¹⁰⁶ 大日本雄弁会講談社『講談全集』第三集収。国立国会図書館蔵。

¹⁰⁷ 講釈師。東京生まれ。後に一龍齋貞丈と名跡を変える。

1. 『胡地に消ゆー王昭君の悲劇』(1985、久松文雄画・久保田千太郎作)¹⁰⁸

王昭君は恋人陳湯と別れて宮女となるが、絵師毛延寿に賄賂を贈らず、匈奴王呼韓邪単于に嫁ぐ。元帝は昭君の美貌を見て怒って延寿を処刑する。呼韓邪は匈奴の漢化を図るが、左賢王若鞮の奸計に罹って世偉を昭君と陳湯の子だと誤解し、陳湯を殺す。若鞮は呼韓邪が建てた宮殿に放火し、呼韓邪は死亡する。若鞮は漢人を追放して昭君に婚姻を迫るが、昭君は服毒死する。

2. 『王昭君』(2009、藤田あつ子)¹⁰⁹

寵愛を受けずに宮殿で一生を終えることよりも宮殿を出て匈奴に嫁すことを選ぶ王昭君の果敢さを描く。

十八 結論

王昭君の故事は日本に伝わり、漢詩・唐楽・和歌・物語・謡曲・小唄・歌舞伎・絵画・琵琶歌・唱歌・新体詩・講談・小説・漫画など様々な形式で受容された。奈良時代(710-784)には漢詩形式で王昭君の怨情を吟詠し、平安時代(784-1185)には『凌雲集』等の漢詩集や『後拾遺和歌集』等の和歌集で王昭君が吟詠された。平安時代にはまた『宇津保物語』など長編物語が出現して王昭君故事を講述し、王昭君故事を借りて書中の人物の心情が描写された。鎌倉時代(13世紀)には『平家物語』において漢帝が王昭君を奪還するために胡国を征伐するという新たな故事が創作され、後に江戸時代(17世紀)には説経節『王昭君』においてそのストーリーが継承された。室町時代(15世紀)には謡曲『昭君』において王昭君の父母が鏡で王昭君と韓邪将を照らし出すというストーリーを演じるが、それは『後拾遺和歌集』の叙述を継承するものであった。江戸時代(17、18世紀)には王昭君像を借りて遊女を比喻する作品が多く作られた。小唄『美楊君歌集』は「遊君」(唱妓)小柳が作った小唄であり、歌舞伎『傾城王昭君』は遊女花月を比喻しており、浮世絵『遊君王昭君身請のすかかき』『見立王昭君』はこの類の絵画である。明治時代(19世紀)に至るまでこの伝統は継承され、長谷川時雨『明治美人伝』には当時の妓女が女性美を代表していると言っている。なお王昭君を遊女と呼んだのは『源平盛衰記』四十八卷(14世紀)がはじめてである。

王昭君は国家に貢献した悲劇的な人物であり、明治時代には模範的な名婦とされ、薩摩琵琶歌や新体詩ではその悲哀を吟詠し、保育唱歌や幼稚園唱歌によって女子教育を行った。明治、大正、昭和時代(20世紀)には戯曲・小説の形式で王昭君或いは王昭君に類似した日本美女を描写した。王昭君故事は日本に伝わって以後、文学や芸術を通じて現在まで伝承されている。

¹⁰⁸ 『中国歴史コミック』42「シルクロード」5、東京：講談社。後に『中国英雄伝』2「李広利・王昭君」(1997、講談社漫画文庫)として刊行。

¹⁰⁹ 『まんがグリム童話』「中国悪女伝」(2009、東京：ぶんか社) 収。